❶ 地域密着型住民公開講座　❷ 2016ふれあい祭り 院内コンサート
❸ 災害訓練　❹〜❼ 臨床研修医に対するシミュレーション研修

❽ ３２０ＣＴ装置　❾３ＴＭＲＩ装置　❿ 内視鏡室

地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター

〒636−0802　奈良県生駒郡三郷町三室 1−14−16
TEL：0745−32−0505（代表）
FAX：0745−32−0517
URL：http://seiwa-mc.jp

病床数：300 床（ICU 4 床、CCU 4 床、一般病床 292 床）
集学的循環器病治療センター、人工関節センター、
消化器がん低侵襲治療センター設置

診療科目：22 診療科
総合内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、消化器・糖尿病内科、
神経内科、呼吸器内科、感染制御内科、小児科、外科・消化器外科、
整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、
皮膚科・形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
放射線科、麻酔科、救急科

主な施設基準等：
一般病棟看護基準（7対1）、救急告示病院（二次救急）、
地域医療支援病院、在宅療養後方支援病院、
地域包括医療・ケア認定施設、基幹型臨床研修病院

明彦先生は長らく当センターと同じ経営母体の奈良県総合医療センターの外科で数多くの外科手術をされてきました。当センターの得意分野は腹腔鏡を用いた「身体に優しい手術」ですが、渡辺先生の加入により、食道癌や肝胆膵系の癌などの「高難度手術」の増加を見込んでいます。一方川手健次先生は、平成23年4月より奈良県立医科大学寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」教授として活躍され、今回新たに「人工関節センター」を院内に立ち上げ、整形外科の診療体制の充実に胸を膨らませています。

当センターは、救急医療にも力を入れできるだけ断らない救急を目指してきました。奈良県の病床機能報告データによると、西和医療圏（前述の西和地域7町、大和郡山市、生駒市）の救急車受入件数（平成27年7月1日〜平成28年6月30日）では、当センターが18ある病院の中では群を抜いています。（年間約３０００件）。とくに先程述べました心血管系の救急は、24時間３６５日対応の体制を構築しています。

このような高度医療、救急医療に基づいた医師臨床研修にも力を入れているのが当センターの大きな特徴でもあります。初期研修においては、当センター独自の臨床研修プログラムを作成し、各学年8名の少数の研修医が、最前線の圧倒的な症例数の中で指導を受けることになります。医師として患者に全力で尽くす気持ちと、チーム医療のなかでしっかりとした責任感を持って仕事に臨むスピリットを持つこと、さらに総合的に初期臨床を行うための知識と技術を身につけることを目標にしています。また学術面では、研修医には年1回発行する西和医療センター医学雑誌に毎年1編以上の論文投稿を義務付けています。

当センターにはまた地域医療支援病院（平成24年8月に承認）としての大きな役割があり、地域の病院・診療所などからの紹介患者さんを積極的に受け入れています。平成28年度の活動状況を具体的に示しますと、紹介率61・0％、逆紹介率86・4％、当センター登録医など地域医療関係者（救急隊員を含む）に対する地域医療連携講座12回、医療従事者公開講座14回、住民公開講座8回、広報誌発行4回などです。さらに当センターは、平成27年2月には在宅療養後方支援病院に認定され、同3月には地域包括医療・ケア認定施設になり、現在、国、県が押しすすめている地域包括ケアシステムの構築に積極的に取り組んでいます。

奈良県立病院機構の基本理念は「〝医の心と技〟を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます」であり、奈良県西和医療センター独自のそれは「患者さんを家族のように愛する」「いい医療をより多くの患者さんへ」であります。これらの理念を実践し、患者さんが患者さんを連れてくるような病院を目指したいと考えております。兄弟分の奈良県総合医療センターは、平成30年春、地下1階、地上7階（病床数５４０床）の新病院としてオープンする予定ですが、ほぼ同時期に建設された当センターも老朽化が進み、新病院建設に向けて県に働きかけている段階です。今後とも御支援の程よろしくお願い申し上げます。